

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

| 視 点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月19日実施) | 総合評価 (3月19日実施) | |
|---|--|--|--|---|---|---|---|---|--|
| | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 1 教育課程 学習指導 | <p>①-1 本校のミッション実現に向けて、新しい教育課程を実践するとともに、継続的な見直しを図る。</p> <p>①-2 ICTをはじめ様々な教育資源を利活用し、社会の変化に対応できる、情報活用能力や問題解決能力を伸ばす学習支援を行う。</p> <p>目指す生徒像や生徒のニーズを的確に捉え、組織的で発展的な授業改善のさらなる推進を図る。</p> <p>②行事運営を主体的な学びの場に位置付け実施する。</p> | <p>①-1 教育課程の教育効果をさらに上げるため、課題を発見し、見直しと充実を図る。</p> <p>①-2 「上南指導メソッド」に基づく学習活動を充実させるとともに、新たな授業改善の取組を検討し、社会の変化に対応できる学習能力を高める学習活動の実践を行う。</p> <p>②生徒一人ひとりが主体的に目標を持ち、企画段階から学校行事に関われるよう支援する。</p> | <p>①-1 過去3年間の学習活動を中心とした教育課程の実践を振り返り、選択指導のあり方、学習評価の方法などを検証し、教育課程の改訂も視野に入れた見直しを行う。</p> <p>①-2 「授業力向上推進重点校」の取組として、令和7年度の研究主題を策定し、全職員による授業改善の取組を実施する。</p> <p>②学校行事において各組織・係の担当職員および生徒と連携を密に取り、各行事の目的に沿った企画、運営が行われるよう支援する。</p> | <p>①-1 選択指導のあり方、学習評価の方法を教科会などを通して具体的に検証し、改善につなげたり、教育課程の改訂や運用の見直しを実現することができたか。</p> <p>①-2 令和7年度の研究主題を新たな視点で策定し、授業改善の取組を実施できたか。生徒による授業評価から主題に関する改善が読み取れたか。</p> <p>②行事後の生徒振り返りアンケートで、満足度や主体的な関わりの充実度が読み取れたか。</p> | <p>①-1 教育課程について、教員対象アンケートや教科会を通して、具体的な課題の発見と検証を行い、改訂や新教育課程作成に向けて見直しを立てられた。</p> <p>①-2 第2期「授業力向上推進重点校」の目標として「授業力」を定義づけて新たな研究主題を策定できた。授業改善の取組では、研修で「エンゲージメント」について学ぶ等、新たな視点で全職員による取組の充実を図れた。</p> <p>②実行委員や係となった生徒が主体的に企画・立案し、体育祭の新種目や文化祭の中庭テニスコートでの後夜祭等大いに学校行事を盛り上げた。</p> <p>上南祭後の生徒アンケート回答でも70%を越える肯定的な回答があった。</p> | <p>①-1 発見された課題を共有し、現行教育課程の改訂を行うとともに、令和13年度開校する新校の教育課程編成を開始する。次期学習指導要領の内容についても情報収集を行う。</p> <p>①-2 第2回「生徒による授業評価」の数値は全体として第1回を上回った。研究主題に関する項目の肯定的な評価割合は、いずれも85%を上回った。しかし、授業改善の効果を読み取る数値として課題があるため、評価方法に工夫を行う必要がある。</p> <p>②上南祭後のアンケートから7割は概ね満足しているという回答が得られた。また、今年度は例年と異なる場所で実施した企画が複数あった。それについての意見としては、例年通りの場所で開催することを望む意見が多かった。</p> | <p>①-1 教育課程、学習指導について、4年間の目標を定め、各年度で自己点検・自己評価がなされており、一定の評価をした。</p> <p>①-1 再編・統合に向け、教育課程等の準備を相手校と連携や調整を取り、進めてほしい。</p> <p>①-2 ICT 機器が学習活動や情報共有の場面でさらに効果的に活用されることを期待する。</p> | <p>①-1 よりよい教育課程の編成を目指し、現行の課題を発見し、改善に向けた見直しを立てられた。</p> <p>①-2 第2期指定校事業の1年目として成果をあげられた。ICTの効果的な活用については課題がある。</p> <p>②行事では、委員や係を中心に生徒が主体的に取り組み、全体の満足度も高かった。来年度は体育祭の会場が変更になるため、企画段階から計画的に生徒主体の活動を進める必要がある。</p> | <p>①現行教育課程の改訂と、新校の教育課程編成の方針案作成を行う。</p> <p>①-2 ICT の効果的な活用を含めた組織的な授業改善の取組計画を作成し、実施する。</p> <p>②上南祭等の学校行事において、職員・生徒が連絡を密にとり、生徒主体で企画や運営を計画的に行い、内容を充実させる。</p> |
| 2 (幼 児・児 童・) 生徒指 導・支 援 | <p>①個別支援の視点から支援体制を構築する。</p> <p>生徒の成長と変容につながる交通安全指導を推進する。</p> <p>②部活動の一層の推進と目標を明示し主体的に取組む指導を推進する。</p> | <p>①-1 かながわ子どもサポートドックを有効に活用し、支援の必要な生徒に確実に支援が届くように、支援体制充実を図る。</p> <p>①-2 交通安全指導の充実を図り、交通事故の減少につなげる。</p> <p>②部活動加入率・成果の向上を図り、各部活動における目標達成のための支援を行う。</p> | <p>①-1 サポートドックアンケートの結果をもとにした個別面談とSC、SSWを効果的に活用したサポート会議を充実させ、子育て支援センター等の外部機関との連携を図るとともに、事案に応じて、データの蓄積も検討し、個別支援体制につなげる。</p> <p>①-2 日常の交通安全啓発指導と始業式・終業式・学年集会等で交通安全啓発講話を行い、事故件数の減少につなげる。生徒主体の交通安全活動も検討する。</p> <p>②生徒会オリエンテーションや部活動見学を効果的に実施するとともに、各部活動の活動・成果を学校HPへ積極的に発信できるよう支援する。</p> | <p>①-1 SC、SSWの有効活用を踏まえた組織的な支援が機能したか。[職員アンケート肯定的評価90%以上]</p> <p>①-2 交通事故件数が20件を下回ったか。交通安全への意識が向上したか。[生徒アンケート肯定的評価90%以上]</p> <p>②部活動の入部率や対外試合での成果等が向上したか。HPの更新が数多く行われたか。</p> | <p>①-1 職員対象のアンケートでは肯定的評価が100%であったことから、SC、SSWの有効活用を踏まえた組織的な支援が機能したと判断できる。</p> <p>①-2 自損事故を含めた交通事故件数が昨年22件に対し本年度は既に21件となっており、前年度を下回ることはできなかった。</p> <p>交通安全意識が向上したか、についての生徒対象アンケートでは、肯定的評価が95%と高い評価を得ることができ、目標を達成できた。</p> <p>②部活動の入部率は3学年全体で86%と高い水準を維持した。運動部入部率も53%と半数以上の生徒が継続していることを示している。HPの更新も今年度新たに立ち上げた公式インスタグラムを中心に各部活動が活発に活動を発信した。</p> | <p>①-1 5月と11月にサポートドックアンケートを実施し、その結果をもとにプッシュ型の面談、SC・SSWを交えてのサポート会議を実施し、情報共有に加え、その後の個別支援へつなげられた。また、命に係る質問項目にアラートがついている生徒数を集約し、傾向を掴むとともに、全職員で対応への理解を深めた。</p> <p>①-2 交通安全啓発事業を昨年度に続き1学年対象に実施した。相模原警察署職員を招き、事故の発生しやすい場所やその原因について学習し、自己啓発につなげた。4月の交通安全教室に加えてもう一つの交通安全教育の柱としていきたい。</p> <p>②1年生全員に部活動を体験するよう指導してきたが、昨今の中学校部活動の縮小傾向に伴い、今年度は混乱が見られた。制度改善の必要がある。</p> | <p>①-1 サポートドックを活用しての支援は評価できる。</p> <p>生徒の状況は変化するので、職員対象アンケート複数回実施等でさらにきめ細やかな体制構築を期待する。</p> <p>①交通安全指導の一層の推進は評価したい。死傷事故を防ぐという観点で重点的に取り組み、道路交通法改正や青切符導入等を踏まえて自転車のルール徹底を指導してほしい。</p> <p>②部活動は初心者の方が安心して参加し成長できる指導体制充実を期待する。</p> <p>②部活動の制度改善は方向性への言及があるとよい。</p> | <p>①-1 サポートドックと年度末アンケート、スクリーニング会議、ケース会議等により、組織的な対応と支援の必要な生徒の把握は確実に進めたが、支援が十分に行えなかったケースもあった。</p> <p>①-2 交通安全意識は高まっているが、交通事故件数は横ばいであり、ヘルメットの着用数も伸びていない。年2回の交通安全教室の継続実施に加え、日々の注意喚起、啓発活動に力を入れたい。2年生の部活動加入率は91%で、多くの生徒が継続している。一方で新入生の加入制度は改善が必要である。</p> <p>②部活動は高い入部率であったが、新入生への部活動紹介等をさらに工夫する必要がある。</p> | <p>①-1 サポートドックアンケートに基づき個別面談とSC、SSWを有効活用したケース会議等をさらに充実させて、支援の必要な生徒を確実に把握し、外部機関等の専門家の支援に繋げる。</p> <p>①-2 青切符導入も踏まえた安全運転への注意喚起を粘り強く行い、交通安全教室をより充実させ、交通事故減少に繋げる。</p> <p>②わかりやすい部活動紹介を行い、部活動見学の機会や体験入部期間増加で、安心して部活動に加入できるよう指導する。</p> |

| | 視 点 | 4年間の目標 (令和6年度策定) | 1年間の目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 (3月19日実施) | 総合評価(3月19日実施) | |
|---|----------------------|---|--|---|---|--|--|---|---|--|
| | | | | 具体的な方策 | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | 成果と課題 | 改善方策等 |
| 3 | 進路指 導援 | ①3年間を俯瞰した指導プランを策定し、確かな学力の向上と生徒一人ひとりが主体的に自分の可能性を広げ高める意識を向上させ、進路実現を図る。 ②進路指導の職員研修等を充実し、目標を明確にした学習・進路指導を推進する。 | ①Classi を活用し、家庭学習の充実を図ることで、日常生活における勉学に対する姿勢を養い、学習への意欲を向上させる。また、進路行事を通し、生徒自身が将来に関して、切実感を持って考えられるようにする。 ②ICT教育ツールや進路情報発信サービスを利用し、効果的な進路指導を行う。 | ①-1 Classi を活用し、家庭学習時間の管理を精力的に行うよう、生徒に指導する。また、週末課題だけでなく、普通の宿題や課題、AIによる個別対応の教材なども家庭で取り組ませ、学習習慣を確立する。 ①-2 学年ごとに効果的な時期に進路ガイダンスを企画する。また、進路室の classroom を開設し、進路情報をより身近に得られるようにする。 ②ICT教育ツールを教員使用だけでなく、生徒使用まで拡張し、進路情報をより効果的かつ効率的に活用する。そのための職員及び生徒への説明・研修会を適宜設定する。 | ①-1 生徒にとって進路実現のための学習の習慣づけとして効果的であったか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上] ①-2 進路ガイダンスや進路室の情報により自分の将来について考えるようになったか。[生徒アンケート肯定的評価80%以上] ②職員・生徒対象の研修、説明会により、進路情報を効果的かつ効率的に活用できるようになったか。[職員及び生徒アンケート肯定的評価80%以上] | ①-1 Classi を活用した週末課題で家庭学習の習慣化を図った。模擬試験のある週には、生成AIで個別最適化された教材を利用し、個別の模試対策に取り組ませ、自己分析を用いた学習方法の確立を図った。 ①-2 学校運営協議会員からご示唆をいただき実施した2年対象卒業生講話等、各学年で適切な時期に進路関係企画を実施した。特に3年一般受験生には、校外模試実施や教師の受験体験講話で学習意欲向上を図った。進路室のclassroomを用いて進路情報を多数発信し、進路選択の支援を行った。 ②教員対象ICT教育ツール研修会とキャリア支援グループ員対象の詳細な研修会も行い、知見を深めた。生徒にも模試分析会、教育ツールを用いた情報収集方法研修会を行い、生徒がより進路情報を収集できる環境を整えた。全学年の面談でClassi・Compassを用いた。 | ①-1 Classi の活用方策が限定的で、週末課題や小テスト、面談での活用はまだ定着していない。次年度も教員対象・生徒対象研修会を設定し、授業や家庭学習での活用を広げ、学習支援と進路活動支援の両立を継続する。 ①-2 進路ガイダンスの内容の検討が必要である。3年生は早めの進路決定を優先して、年内入試での合格を目指す傾向がある。次年度は、早期から最適な進路を考えさせ、安易な進路選択を避けるように指導する。生徒の教育ツール研修方法も、研修内容を活用しきれず、情報収集が十分でない生徒が散見された。今後は面談でも担任から教育ツールの活用指導ができるように、職員、生徒向け共に効果的な研修会を開催したい。 | ①-1 授業・単元の最初や最後に、該当範囲のClassiへのリンク情報提供など、生徒が関連ページにアクセスしやすくする工夫を期待する。 ①-2 進路情報をカレンダー形式で提供すると、生徒にとって見通し易いものとなる。 | ①-1 今年度も週末課題、模擬試験対策においてClassiの活用を十分に行うことができた。生徒の自発的利用を推進したい。 ①-2 進路ガイダンスを適当な時期に設定し成果を挙げた。特に今年度の2学年では「卒業生大学講話」を新たに実施し、在校生の進路の見識を深めた。さらに生徒自身が、見通しをもって進路を考えるように支援する必要がある。 | ①-1 Classiの使用用途の提示が課題である。学校関係者から頂いた意見を元に、クラスルームなどにClassiのリンクを貼り付けるなど、授業や家庭学習でも情報にアクセスしやすいつ環境を整える。 ①-2 次年度も生徒の進路の見聞が広がるようなガイダンスを適宜設定する。特に一般受験を目指す1、2年生への情報提供を工夫し、支援を充実させる。 |
| 4 | 地域等 との協 働 | ①学校運営協議会を活用し、全ての生徒が関われる地域活動を整備する。総合的な探究の時間等の課題解決学習に地域資源を活用し、地域との協働を推進する。 | ①「地域社会に貢献する」という視点を持ち、多くの生徒が主体的かつ能動的に活動に関われるよう、地域資源を活用しながら、地域連携活動を充実させる。 | ①地域連携実行委員を軸に、地域行事に生徒が主体的に関わる機会を創出できたか。また、1学年を対象とした地域資源を活用したプロジェクト型探究活動において、学年と連携しながら取組の質と生徒の関与度を高められたか。[生徒アンケート肯定的評価90%以上] | ①地域連携実行委員を中心に、地域行事への参加機会を拡充し、生徒が主体的に地域と関わる場を複数設定した。生徒は地域行事に積極的に参加し、企画運営の補助や来場者対応等を通して行事の活性化にも貢献した。また、1学年では、地域資源を活用したプロジェクト型探究を学年で連携して実施し、取組の質と生徒の関与度を高められた。生徒アンケートにおいても肯定的90%評価が概ね90%以上となり、目標は概ね達成した。 | ①地域行事への参加を「参加・協力」にとどめず、生徒が目的設定や企画立案、役割分担、運営改善まで担うなど、より主体的に関与できる形へ発展させる必要がある。地域資源を活用したプロジェクト型探究については、課題設定の根拠を明確化し、先行事例・文献の参照、調査方法の妥当性の検討、データに基づく分析・考察、成果の発信までを一連の過程として位置付け、より研究に近い探究活動へと質的向上を図る。年間計画の早期策定と評価規準の共有、外部連携先との協働体制の整理、成果物と省察の蓄積・公開を進め、地域と学校共に価値ある取組として継続的に改善する。 | ①地域社会との関わりへ生徒の主体的・能動的な取組が重要だ。 ①自治会の祭に参加があり、地域住民は満足している。今後は、自ら企画提案し地域と一体となって活動する環境を構築してもらいたい。 ①同窓会も含め、地域社会への活動参加・連携が図れるよう期待する。 | ①地域連携実行委員を中心に地域行事に積極的に参加した。また、多くの1学年の生徒が、プロジェクト型探究活動に積極的に参加することができた。さらに、生徒自身が主体的・能動的に活動に取り組むように内容等を検討する必要がある。 | ①これまで以上に「地域社会に貢献する」という視点を持ち、地域連携実行委員の活動をより充実させていく。また、地域連携実行委員をはじめとして、主体的・能動的に活動できる生徒をさらに育成する。 | |
| 5 | 学校管 理 学校運 営 | ①職員・生徒主体の環境美化活動、防災計画を推進し、安全安心な学校づくりを進める。 ②業務改善の推進や学校内外の資源活用を通し、事故不祥事防止とともに、働き方改革を推進する。 | ①生徒の災害時の状況への想像力を養う防災訓練の実施と生徒が互いに環境への意識を高め合う活動を実施し、職員・生徒ともに安全安心な学校づくりに参画する意識の向上を図る。 ②職場環境整備と業務軽減を実施するとともに、事故・不祥事を未然に防止する。 | ①「共助カード」を作成し、生徒に災害時の対応を周知し、自分ができることを考えさせる。環境美化委員会を中心に学校内外の美化活動に取り組み、フィードバックをすることで全校生徒の自主性を高める。 ②-1 オフィス改善を行って職場環境を整え、業務軽減も実施する。 ②-2 不祥事防止会議を中心に実効性のある不祥事防止研修を実施する。 | ①防災訓練や環境美化活動を通して、安全安心な学校づくりをする一員であることを認識できたか。[生徒アンケート肯定的評価90%以上] ②-1 オフィス改善により働きやすい職場環境を整え、業務軽減策を実施し、働き方改革につながられたか。 ②-2 不祥事防止研修が実効性のあるものとなったか。 | ①防災については、「共助カード」を各教室に配備し、各種訓練を通して生徒の当事者意識や日頃の防災意識の向上を図り、生徒アンケートでは93%の肯定的評価を得た。環境美化活動については、学年横断で清掃状況をチェックするクリーンチェックを2回実施し、全校生徒の清掃への意識を高めることができた。(環境美化に関する生徒アンケートは3月実施のため、実施後に記述) ②-1 オフィス改善により職員室と事務室の什器を入れ替え、職場環境を整えられた。 ②-2 時機に応じた不祥事防止研修を行い、事故不祥事防止ができた。 | ①「共助カード」を生徒が実際に使用する訓練などを実施し、誰もが身近にいる大人にSOSを出せるよう、実践力を育むことを目指す。次年度は実技訓練でより一層生徒の意識向上を図る。また、清掃状況のチェックだけでなく、清掃用具の点検・管理を徹底させて環境美化意識のさらなる向上を図る。 ②-1 職員室・事務室の整備を進め、職場環境を整える。業務軽減の改善策を検討し働き方改革につなげる。 ②-2 不祥事防止研修の内容や方法をさらに工夫し、実効性のある研修とする。 | ①防災の取組は、成果があがっている。 ②業務改善、不祥事防止を進めているが、来年度はさらに工夫をして、推進してほしい。 | ①生徒の防災意識は向上している。次は防災実践力の向上を図る。また、生徒による点検を充実させ、環境美化を意識できる工夫を講じる。 ②-1 職場環境改善は、一定の成果を収めたので、整備を進める。業務軽減を工夫する。 ②-2 事故不祥事の未然防止はできた。研修会の在り方を工夫する。 | ①実技訓練を実施、「共助カード」の生徒による項目見直しを実施する。日頃の清掃で学校づくりへの参画意識が持てるよう、点検項目、方法等を生徒主体で再検討する。 ②-1 教職員から意見を集め、業務改善を進める。 ②-2 研修内容や形態を工夫する。 |

